

医療経済評価の有効性と 病院薬剤師の役割

大阪大学大学院医学系研究科医療経済産業政策学寄附講座

教授 田倉 智之

●医療経済学的な評価の概念●

医療経済学は、医療分野における様々な問題を扱う医学と経済学の融合領域であり、医療制度や臨床現場に関わる多様な現象を経済学的手法を用いて分析し、医療システムの発展や国民の健康福祉の向上に寄与することが目的になります。医療を取り巻く社会環境を眺めると、患者と家族が医療から最大の幸福を得られ、同時に医療者側の継続的な発展のためには、経済的な検討が欠かせないと考えられます。

これに対して、治療法の選択や制度の適切な運営・改革のための判断材料を提供するのが、医療経済学となります。特に、社会的な公平性の観点から、医療資源（たとえば、公的な医療保険財源など）を、合理的に配分する議論（つまり、受益・負担のバランス担保など）に対して、学術的な理念や根拠を示すことが期待されています。また、技術革新や病院経営が重要なテーマとなっている昨今においては、治療や健康プログラムについて、投入する費用に対してどれくらいの効果が得られるか、を検討する費用対効果分析なども注目されています。

なお、医療は社会の縮図とも考えられますので、医療経済学のテーマも多岐にわたっており、それぞれの課題で応用する原理や手法も異なります。この対象と適用される理論などで医療経済学もいくつかに分類されます。たとえば、国全体に関わるマクロ系のテーマとして「社会保障」や「医療政策」が考えられます。さらに、個々の患者・家族に近いミクロ系のテーマには、「病院経営」や「医療技術」が挙げられます。近年は、これらのテーマを横断的に論じることも希求されており、経済的な側面からその意義を精査することが望まれています。

●生み出す価値を意識する時代●

人間の営みのなかで、人々にとって価値があるものに対しては、社会的な各種資源の投入が促されて、それらに対する報酬も高くなる傾向にあります。薬剤師などの医療経済的

な意義を論じるに当たり、経済的な価値とはそもそもどのようなことを指しているのか、また、それを表現する方法について少し整理を行ってみます。一般に、価値は、“有形、無形を問わずモノ”の“意義、意味”を指す概念と考えられています。

たとえば、経済や経営の分野における価値とは、投資と回収の比率で説明がなされ、それを表現する指標で議論されます。医療サービスの場合は、回収を健康度の回復量などで、投資を医療資源の投入量で示すこととなります。つまり、医療技術の多くも健康を維持・回復するという目的に対する機能に位置付けることになり、たとえば、

$$\text{健康回復} \div \text{消費資源} = \text{診療パフォーマンス} \Rightarrow \text{価値}$$

と整理されます。これは、1つの予算や資産の消費に対する成果が高いほど良い、または1つの結果を得る費用が小さいほど高い、と整理がなされます。つまり、予算の範囲で成果を最大化させる場合、パフォーマンスが高いほど得られるものは増え、いわゆる価値が増大することとなります。

もちろん、価値自体は、個人それぞれにとって非常に多様性があり、全てを単純に数値へ置き換えることができないのも事実であります。ただし、これらの物差しを用いることで、医療が生み出す幸せや負担を限定されながらも定量的に取り扱い、さらに共有化することも可能になるので、関係者全体にとって最も望ましい医療システムの検討へつながると推察されます。

●医療経済評価の有効性と医療従事者の役割●

わが国における医療経済評価は、その途に就いたばかりといえますが、時代の趨勢から今後、活動の広がりが期待されています。最近も新聞報道がなされておりましたが、重篤な病態の患者救命に関わる費用対効果分析の研究成果も散見しています。

たとえば、治療によって得られる“1年間健康に暮らせる指標”である質調整生存年（クオリリー）を単位とした分析によると、重症心不全の症例に対する補助人工心臓治療の場合、その成果の獲得には1,104万円が必要となります。また、末期腎不全の症例に対する血液透析療法の場合、その成果の獲得には688万円が必要となります。

この数値の解釈には、各病態の置かれた背景に配慮するとともに、広く国民の価値観、または経済実体の状況および現状の診療報酬水準などを、総合的に俯瞰する必要があります。一方で、医療技術の経済性を疾病や技術にこだわらず横断的に検討することが可能となり、医療への投資を促し、医療を発展させる面のみならず、受益と負担などを国民全体で考える点からも、意義が高いと推察されます。

このような医療経済評価のエビデンスの構築に当たり、医療従事者の積極的な参加が不可欠であるの言うまでもありません。そこで、看護師による医療経済評価の取り組みを1つ紹介したいと思います。医療経済評価では、患者アウトカムの指標を観察することが多くなっています。ただし、わが国でもニーズが高まるパリアティブ領域では、患者ご本人からの情報収集が困難な場合も多いようです。そこで、患者ケアに携わる看護師による代理回答の可能性について議論があり、わが国でも萌芽的な研究報告がなされています。

●病院薬剤師に今後求められる医療経済学的な取り組み●

病院薬剤師が今後より一層その職業的価値を発揮し、医療のみならず社会に貢献をしていくためには、どのような取り組みが必要か整理を行ってみます。

医師や看護師とは異なる薬剤師独自の目線から、その職業的価値を医療経済学的な視点で評価する取り組みについて検討する必要があると考えられます。たとえば、医療の受け手である患者や家族が医療サービスを評価する際に、職種ごとの貢献度を区別するわけではなく、まずはトータルのサービスとして認識をすることになるはずですが、チーム医療全体の成果を形作るのは、個々の医療従事者の貢献の積み上げとなります。

その患者側のアウトカム評価の対象には薬剤師も含まれていますので、その一翼として職業的価値を具体的に示すことができるのが重要になります。医師や看護師がそれぞれの職業的価値を具体的なエビデンスとして示すことに取り組み、患者、ひいては社会にアピールしている現在、薬剤師も同様に、自らの職業的価値のアピールのため、積極的に行動を起こすことが求められます。

診療の経済的な論点に関わる今後の取り組みのなかには、薬剤師が貢献し価値を生み出す部分が数多くあると考えられます。たとえば、前述の腎不全治療の領域や看護師業務の分野でも、薬剤に関わる問題などは多数見受けられます。まずは、医師や看護師のこれらの取り組みに参画し、薬剤師ならではの問題意識から、臨床試験やデータ解析、評価などに関わることから始めてみるのも一つの選択と考えられます。

●病院薬剤師の医療経済的な貢献のケース●

病院薬剤師が貢献し得る経済的なアウトカム事例としては、処方提案や治療方法のチェックによる有害事象の回避により、疾病負担のみならず医療費を軽減することが挙げられます。特に、DI活動やTDM実施により、モニタリングコストや在院日数の低下も期待されるという報告があります。

それらの医療経済的評価の質を検討したシステムティックレビュー論文を紹介します。最終的な評価指標である成果と費用の比（利益コスト率）を明示していた8本の論文が分析対象となります。報告された利益コスト率は、1を基準に最小が1.05から最大で29.95の範囲にわたり、代替技術との比較は、1クオリー獲得のために1万ユーロから5万4千ユーロなどのケースが示されています。なお、この筆者らは、今後の研究の方向性として、臨床アウトカムを改善しうる個別の臨床薬剤業務に対する経済的評価研究の重要性を述べています。

社会経済的な議論の占める割合が増すわが国の現状をふまえると、将来的に、患者・家族が支払う対価に見合う付加価値の高いサービスをどのように提供するか、そのために臨床薬剤業務にどう取り組むかという、将来を見据えた視点を持つことが、病院薬剤師の社会的価値を高めるために重要となります。つまり、医療費節約のための議論だけではなく、医療システムに対する付加価値を高めていく工夫や医療機関の経営貢献につながる取り組みを検討することが、病院薬剤師の医療経済評価の今後のテーマと考えられます。